

社会教育における人権教育編

実 践 事 例

- (1) 公民館
- (2) P T A

東金子公民館
藤沢北小学校P T A
黒須中学校P T A

令和5年度 公民館『人権教育推進事業』（人権啓発講座）

はじめに

■令和5年度の人権教育推進事業(人権啓発講座)について

令和2年度から社会教育課と公民館の共催により、人権啓発講座を実施しています。この人権啓発講座は、人権問題について正しい理解と認識を深め、生涯学習の視点から、「誰でも、いつでも、どこでも」人権について学ぶことを通して、人権感覚を培い、誰もが互いに尊重し合えるような共生共存の社会の実現を目指すことを目的としています。

今年度は、「ヤングケアラー支援「あなたが出来ること」「あなただからできること」」を藤沢公民館、「やさしい日本語」で伝わる つながる」を金子公民館、「『ふつう』ってなんだろう？～性的マイノリティから考える人権～」を黒須公民館、「同和問題の解決を目指して」を東金子公民館、「発達障害と人権 ～発達障害の基礎知識をとおして～」を宮寺公民館がそれぞれ担当しました。これら様々なテーマの講座を、各公民館対象の地区住民に向けて、全5回にわたり開催しました。

【講座一覧】

| | 期 日 | 講 座 名 | 担 当・会 場 | 講 師 | 学 習 方 法 |
|---|---------------|-----------------------------------|---------------------------|---|-----------------------|
| 1 | 9月26日 (火) | ヤングケアラー支援「あなたが出来ること」「あなただからできること」 | 藤沢地区 センター (藤沢公民館) | 入間市こども支援課 ヤングケアラーコーディネーター 本間 円 氏 | 講話 グル ープ ワーク |
| 2 | 10月12日 (木) | 「やさしい日本語」で伝わる つながる | 金子地区 センター (金子公民館) | 「入門・やさしい日本語」認定講師 徳永 由佳 氏 | 講話 |
| 3 | 11月29日 (水) | 「『ふつう』ってなんだろう？～性的マイノリティから考える人権～」 | 黒須地区 センター (黒須公民館) | 前市議会議員・LGBT自治体議員連盟世話人・コニシエット代表 細田 智也 氏 | 講話 |
| 4 | 12月8日 (金) | 「同和問題の解決を目指して」 | 東金子地区 センター (東金子公民館) | 埼玉県人権・男女共同参画課人権啓発講師 吉岡 秀樹 氏 | 講話 |
| 5 | 12月14日 (木) | 「発達障害と人権～発達障害の基礎知識をとおして～」 | 宮寺・二本木地区センター (宮寺公民館) | 埼玉県発達障害総合支援センター 地域支援担当課長 松原 聡子 氏 | 講話 |

第1回講座「ヤングケアラー」〔参加人数 19名〕 担当 藤沢地区センター

◇日時 9月26日(火) 午後2時00分～3時30分

◇会場 藤沢公民館 2階 洋室CD

◇演題 ヤングケアラー支援「あなたができること」「あなただからできること」

◇講師 入間市こども支援課

ヤングケアラーコーディネーター 本間 円 氏

【目的】

- ・人権問題について正しい理解と認識を深め、生涯教育の視点から、『誰でも、いつでも、どこでも』人権について学ぶことを通して、人権感覚を培い、誰もが互いに尊重し合えるような共生共存の社会の実現を目指す。

【主な学習内容】

- ・ 1 入間市ヤングケアラー支援条例について、 2 ヤングケアラーとは、 3 ヤングケアラー支援の取り組みについて、というテーマで、講師がパワーポイントを使い実例を交えて説明をした。
- ・ その後、参加者でグループワークを行い事例についての感想等を発表した。
- ・ 資料として、A5版カラーチラシ配布。また、アンケートへの協力をお願いした。

【感想】

- ・ ヤングケアラーの存在に気づくことが重要であるが、お手伝いとヤングケアラーの違いを判断することは難しいと感じた。日頃からのコミュニケーションが大事であると思いました。
- ・ 学校からヤングケアラーについての情報発信や、気軽に相談できる場があると、子どもたちにもヤングケアラーへの認識が深まり、支援へと繋がるのではないかと思います。

【学んだこと】

- ・ 子どもたちの話をよく聞き、状況をよく理解すること。また、ヤングケアラーへの正しい知識を持つことが大切であると学びました。



第2回講座 「外国人の人権」〔参加人数 11名〕 担当 金子地区センター

◇日時 10月12日(木) 午後2時00分～3時30分

◇会場 金子公民館 1階 大会議室

◇演題 「やさしい日本語」で伝わる つながる

◇講師 「入門・やさしい日本語」認定講師 徳永 由佳 氏

【目的】

- ・「やさしい日本語」について学ぶことで、外国人が暮らしやすい社会を作ることを目指す。

【主な学習内容】

- ・1「やさしい日本語」について、2「ハサミ」の法則について、3外国人とのコミュニケーションについて、というテーマで、講師がパワーポイントを使い実例を交えて説明をした。

【感想】

- ・日本に住んでいる外国出身の方で暮らしにくさを感じている方がたくさんいることがわかった。
- ・「やさしい日本語」を実践し、外国人にとってわかりやすいコミュニケーションを心掛けようと思う。
- ・正しい理解と知識を身に付けることが大切だと思った。これからも、外国人とのコミュニケーションについて考えていきたいと思う。

【学んだこと】

- ・市内でも外国人が増えている現状や、外国人が安心できるコミュニケーション方法を学んだ。



第3回講座 「性的マイノリティ」〔参加人数 13名〕 担当 黒須地区センター

◇日時 11月29日(水) 午後2時00分～3時30分

◇会場 黒須公民館 2階 大会議室

◇演題 『ふつう』ってなんだろう? ～性的マイノリティから考える人権～

◇講師 前入間市議会議員 LGBT自治体議員連盟世話人

ユニセフト代表 細田 智也 氏

【目的】

- ・人権問題について正しく学ぶことで、市民一人一人が正しい理解と認識を深めるとともに、家庭や地域で誰もが幸せに暮らせるよう人権感覚を養うことを目的とする。

【主な学習内容】

- ・性的マイノリティの方の人権について、講師が自らの体験を交えながら、パワーポイントを使い説明をした。
- ・資料として、「ふつう」ってなんだろう? ～性的マイノリティから考える人権～を配布した。

【感想】

- ・一人一人の性格、したいことを尊重できることが大切です。いろいろな立場の人を平等に理解しなくてはならないですね。
- ・経験を入れての話は、わかりやすく理解できました。やさしい社会になるよう、自分も努力したいと思いました。
- ・「未来は暗くない!」が心に響きました。貴重なお話を聞いてよかったです。

【学んだこと】

- ・自分の価値観だけで生きていると、悩み苦しんでいる方を傷つけてしまうことを学びました。



第4回講座 「同和問題」〔参加人数 23名〕 担当 東金子地区センター

◇日時 12月8日（金）午後2時00分～3時30分

◇会場 東金子公民館 1階 大会議室

◇演題 同和問題の解決を目指して

◇講師 埼玉県県民生活部人権・男女共同参画課
人権・同和問題啓発講師 吉岡 秀樹 氏

【目的】

- ・人権、同和問題について正しく学ぶことで、市民一人一人が正しい理解と認識を深めるとともに、家庭や地域で誰もが幸せに暮らせるよう人権感覚を養うことを目的とする。

【主な学習内容】

- ・1 人権について、2 人権課題として「同和問題・部落差別」、「インターネットにおける人権」というテーマで、講師がパワーポイントを使い実例を交えて説明をした。
- ・資料として人権課題についてまとめた資料を配布した。

【感想】

- ・初めて人権の概念が明文化されてから800年経ってなお、世界的な問題として残っていることに驚いた。
- ・同和問題を身近に感じたことがなく、今でもあることに驚いた。知らないうちに加害者にならないように知識を深めたい。
- ・正しい理解と知識を身に付けることが大切だと思った。これからも、人権について考えていきたいと思う。

【学んだこと】

- ・「寝た子を起こすな」ではなく、「人権」、「同和問題」に対する正しい知識を身に付け差別をなくしていくことが重要な取り組みだと学んだ。
- ・すべての人が様々な人権問題を自分事として理解し、解決に向け努力できるようになることが解決に必要なことだと学んだ。



第5回講座 「障害者の人権」〔参加人数 17名〕担当 宮寺・二本木地区センター

◇日時 令和5年12月14日（木）午後2時00分～3時30分

◇会場 宮寺公民館 1階 大会議室

◇演題 「発達障害と人権」～発達障害の基礎知識をとおして～

◇講師 埼玉県発達障害総合支援センター 地域支援担当課長 松原聡子 氏

【目的】

- ・人権、同和問題について正しく学ぶことで、市民一人一人が正しい理解と認識を深めるとともに、家庭や地域で誰もが幸せに暮らせるよう人権感覚を養う。

【主な学習内容】

- ・「発達障害と人権」というテーマで、「人権擁護に関する世論調査」を用いながら「人権ってなんだろう？」からスタートし、「発達障害の基礎知識」「発達障害の特徴」「二次障害について」「発達障害のある子どもへの対応」等、講師がパワーポイントを使い実例を交えて説明をした。

【感想】

- ・発達障害や人権問題に対する正しい理解と知識を身に付けることが大切であるということ再認識した。
- ・身近な対応の中にも、発達障害のある子どもに接する可能性が多いことに驚きを感じるとともに、多様性への理解を深めることの重要性を感じた。

【学んだこと】

- ・発達障害の支援を必要としている人は多く、また、外見からは問題がわかりにくいこと、障害かどうかの境界が明確ではないことを学んだ。
- ・発達障害のある子どもへの対応として、「成功体験を作る」「失敗から学ぶよりも成功するための配慮をする」という点を学んだ。
- ・問題が起こった時、どのような行為にも子ども本人にとっては意味があり、それを回りが気づき理解してあげることで、二次障害につながらないような対応をすることが重要であると学んだ。



おわりに

冒頭に述べた通り令和5年度の人権啓発講座は、藤沢公民館、金子公民館、黒須公民館、東金子公民館、宮寺公民館を会場として、9月から12月にかけて全5回にわたる開催を計画しました。

第1回講座「ヤングケアラー支援『あなたができること』『あなただからできること』」では、ヤングケアラーについて正しい知識を身に付け、また、自分にも関わりのある問題として考えることが必要であり、予断や偏見を持たずに人と接することが大切だと学びました。

第2回講座「『やさしい日本語』で伝わる つながる」では、外国の方が理解しやすい日本語の伝え方について学びました。

第3回講座「『ふつう』ってなんだろう？～性的マイノリティから考える人権～」では、「ふつう」という言葉が持つ意味の怖さについて学びました。

第4回講座「同和問題の解決を目指して」では、同和問題、人権問題を他人事ではなく、自分事として考えることが解決に繋がっていくと学びました。

第5回講座「発達障害と人権 ～発達障害の基礎知識をとおして～」では、障害者の権利と発達障害の基本的な知識について学びました。

今年度学習したことをもとに、今後も公民館では、人権を尊重しようとする意識や態度を養い、人権感覚を高め、地域で支え合うことに繋がる様々な活動に積極的に取り組んでいきたいと思えます。

最後に、ご指導いただきました各講座の講師の皆さま、講座開催にあたり、ご協力いただきました地域住民の皆さま、公民館利用者の皆さまに心から感謝を申し上げます。

伝えよう命の尊さ
【自分の大切さ、他の人の大切さを考える】

はじめに

藤沢北小学校は、今年で開校45年になります。

学校教育目標である、[かしこく やさしく たくましく]を軸に、児童自ら学び、多様性を認める柔軟さを持ち、チャレンジ精神を忘れずに学校生活を送っています。

今年度、人権教育推進事業の指定PTAとして、人権の基本である命の尊さについて、改めて考える機会になるよう、「伝えよう命の尊さ」をテーマに、自分自身の大切さや他の人も大切にすることを考え、子どもたちに伝えていけるような講座を開催しました。

学習計画

| 回 | 実施日 | 主催 | 講座名 | 講師 | 形式 |
|---|-------|-----------|---------------------------------------|---|----|
| 1 | 7月12日 | 本校 PTA | 子どもたちの悩みに答える ～コミュニティスクールと地域学校協働活動～ | 入間市社会教育課 社会教育指導員 大久保 健一氏 | 講話 |
| 2 | 12月8日 | 講座 参加 | 入間市東金子公民館人権啓発講座 「同和問題の解決を目指して」 | 埼玉県県民生活部 人権・男女共同 参画課 人権・同和問題 啓発講師 吉岡 秀樹氏 | 講話 |
| 3 | 1月25日 | 本校 PTA | 子どもの幸せのために今すぐできること | 性と共に生を伝える 「生共育」講師 久保 佳苗氏 | 講話 |

第1回講座 7月12日(水)

参加者：16名

演題 子どもたちの悩みに答える ～コミュニティスクールと地域学校協働活動～

講師 入間市社会教育課 社会教育指導員 大久保 健一 氏

【目的】

- ・子どもたちが生きがいを感じて過ごすために、学校と地域が協力していく必要性・方法について考える。

【主な学習内容】

- ・昔と現代での学校や社会、家庭環境の変化について
- ・現代の日本、学校、親、子どもの抱える悩みについて
- ・いじめ、不登校、貧困、ヤングケアラーの実態について
- ・問題解決に向けて、私たちが今すぐできることを考え、話し合うグループワーク



【感想】

- ・いろいろな悩みを相談できるところが、たくさんできると良いと思った。
- ・子どもや学校のために何ができるのか、もう一度考えてみたいと思います。
- ・教員の人員問題など、現場で働いている方のリアルな声を聞いて、不安なことが多いと思ったが、何か手助けできることがあればしていきたいと思いました。
- ・紹介されていた土井善晴氏の著書『一汁一菜でよいという提案』を読んで、簡単な食事でも一つ一つ丁寧に作る過程を大切にすることが、子どもの安心と健康にも繋がると思った。
- ・付箋に「もうやっていること」「これからやりたいこと」を書いてグループで話し合うワークでは、学校や子どもたちを支援するために自分ができることは何か、新たな気づきが得られました。

【学んだこと】

- ・今、日本のおかれている家族形態の変容や少子高齢化、財政の悪化などの状況がよく分かった。
- ・現代ならではの子どもの悩みが深刻化していて、子どもの命に関わる問題が多くあるということ。
- ・学校と子どもたちを取り巻く環境は昔とは大きく変わり、教員不足、いじめ、貧困など、大人も子どもも様々な悩みを抱えていることが分かった。
- ・解決策をいろいろと模索していたり、実際に行動されている団体があることを知りました。



第2回講座 12月8日(金)

参加者：1名

演題 「同和問題の解決を目指して」

講師 埼玉県県民生活部 人権・男女共同参画課
人権・同和問題啓発講師 吉岡 秀樹 氏

【目的】

- ・人権・同和問題について学び、正しい理解と認識を深める。

【主な学習内容】

- ・人権とはなにか
- ・同和問題の歴史的背景、現状について
- ・人権課題（インターネットによる人権侵害、LGBTQ、子どもの人権）について
- ・人権問題を解決するために

【感想】

- ・無意識のうちに当たり前だと思っている古くからの慣習やしきたりが、部落差別のなごりかもしれないとは思いませんでした。
- ・同和問題を解決するために私たち一人一人が正しく理解し、子どもたちにも曖昧にすることなく、きちんと伝えていくことが重要だと思いました。
- ・自分の考えが普通、当たり前と思うことなく、いろいろな考え方があっていいと、広い視野を持って人と接していくことが大切だと思いました。
- ・SNSによる人権侵害はニュースでも多く取り上げられるように社会問題になっており、子どもたちのSNS、スマホの使い方とも問題になっているので、「日常でできないことを、ネットならできるにしないこと」を子どもたちにだけでなく、私たち大人がしっかりと意識し、行動していかななくてはならないと思いました。

【学んだこと】

- ・県民の人権課題への関心はインターネットによる人権問題がトップだが、新たに性的マイノリティ、LGBTQによる差別にも多くの関心が寄せられていること。
- ・解決に向けて、正しい知識を身に付け、自分にも関わりのある問題として考え、予断や偏見を持たずに人と接することが、差別をなくしていくことに繋がっていくこと。



第3回講座 1月25日(木)

参加者：18名

演題 子どもの幸せのために今すぐできること

講師 性と共に生を伝える「生共育」講師 久保 佳苗 氏

【目的】

- ・子どもの幸せのために親である私たちが今できることは何か、学び考える。

【主な学習内容】

- ・性教育の根本とは
- ・幸せの実践と価値観について
- ・子どもも大人も自分の価値に気づくために
- ・子どもたちにどう伝えたいか考えるワーク

【感想】

- ・「生まれてくれてありがとう」「生きていてくれてありがとう」の言葉を身に沁みて考えました。自分にも子どもにも毎日伝えたいです。
- ・子どもが生きてくれているだけで幸せという、シンプルに大切なことを忘れがちで、ついつい当たり前になっていました。欲張りになりすぎないように、心に余裕を持って過ごしたいと思います。
- ・普段の生活でいっぱいいっぱい、日々の幸せに気づいていないことが多々あった。これからは幸せ発見の達人になれたらと思います。
- ・自分の幸せな姿、楽しく生きている姿を見せたい。生きていること、生まれたことに感謝して、子どもにも伝えていきたいと心から思いました。

【学んだこと】

- ・子どもが幸せに生きていくためには、まず大人が幸せになること。今ある幸せ、生まれてきたことに感謝して暮らしていくこと。
- ・子どもの不登校や自殺者増加には、自分の価値が分からないことが関係している。「生きているだけで価値がある」と思えることが、子どもの幸福度にも繋がっている。
- ・考え方、子どもへの声の掛け方で人生や運命が変わっていくこと。「生きていてくれてありがとう」と子どもに伝えることが1番の性教育。



一人一人の人権意識を育てよう

はじめに

生徒の多くが黒須小学校・高倉小学校からの入学となっている黒須中学校は、開校44周年を迎えました。本校の学校教育目標は【自立と絆】となっており、学校行事・委員会活動・部活動などで、子どもたちの主体的な参加による活動が充実し、お互いを認め合う仲間づくりと一人一人の自己肯定感を高めるよう、学校全体で取り組んでいます。

私たち成人教育部は、人権教育推進事業の指定P T Aとして「一人一人の人権意識を育てよう」をテーマにしました。同じ年頃の思春期の子どもを持つ保護者同士、子どもたちの健やかな成長と豊かな人間形成を願い、地域の人々との交流を通して家庭の役割や家族のあり方について考え、家庭教育の一層の充実を図ることを目的として、学びの場を考えました。

学習計画

| 回 | 実施日 | 主催 | 講座名 | 講師 | 形式 |
|---|--------|-------------|-----------------------------------|---|----|
| 1 | 7月 5日 | 本校 P T A | 開講式・「子どもと親のかかわり」 | 黒須中学校校長 前畑 哲也先生 | 講話 |
| 2 | 9月 26日 | 本校 P T A | 「盲導犬との出会い」 | 入間市視覚障害者 福祉協会会員 福井 恵子氏 | 講話 |
| 3 | 12月 8日 | 講座 参加 | 入間市東金子公民館人権啓発講座 「同和問題の解決を目指して」 | 埼玉県県民生活部 人権・男女共同 参画課 人権・同和問題 啓発講師 吉岡 秀樹氏 | 講話 |

第1回講座・開講式 7月5日(水)

参加者：10名

演題 「子どもと親のかかわり」

講師 黒須中学校 校長 前畑 哲也 先生

【目的】

- ・親が子どもの教育に対する責任を自覚し、子どもの人権について学ぶ。
- ・子どもとより良いコミュニケーションをとるために、親の役割を考える。

【主な学習内容】

- ・子どもの生活習慣の確立と維持について
- ・心も身体も大人へ向かう思春期について
- ・しつけや家庭でのルールについて
- ・様々な体験の必要性について
- ・子どもの個性や夢について



【感想】

- ・校長先生と同世代ということもあり、校長先生の生い立ちのスライドやお話がとても楽しかったです。(サケとカモの話、楽しかったです。)
- ・いつも心掛けている事ではありましたが、校長先生のお話を聞いて改めて気付くこともあり、とても勉強になりました。
- ・一人娘が中学生になり、子どもとの接し方が分からなくなって、今の接し方でいいのか不安だったため、参加させていただきました。お話を聞いて安心する部分と取り組んでいかなければならない部分が見えてきたと思いました。
- ・思春期まっただ中の子どもとどう向き合っていけばいいのか？と悩んでいるところでした。家庭でのかかわりが大事とのこと、今一度改めたいと思いました。
- ・生活習慣・スマホの使い方について、再度話し合いを行いたいと思いました。
- ・一日のリズムの基本である朝食について、親として気を付けるとともに家族一緒の食事の時間を大切にしようと思いました。

【学んだこと】

- ・突然子どもが反抗的な態度をとっても、真正面からぶつかってお互いに傷つけないように「思春期は子どもの成長に必要な時期だ」と捉え、子どもと向き合い見守ることが大切だということ。
- ・「正しいしつけ」は子どもへの大切な贈り物。間違っただけの行いは毅然とした態度で叱り、良いところは褒めて、子どもが「愛されている」と実感できるコミュニケーションをとること。
- ・過保護・過干渉にならないようサポートし、他の子との比較に捉われないこと。

第2回講座 9月26日(火)

参加者：13名

演題 「盲導犬との出会い」

講師 入間市視覚障害者福祉協会会員 講師 福井 恵子 氏

【目的】

- ・地域で盲導犬と暮らしている方から話を聞くことで、盲導犬との出会いや訓練等
の大変さを知る。
- ・障がい者についての理解を深め、温かい心で共に生きることの大切さを学ぶ。

【主な学習内容】

- ・目が不自由になった経緯や盲導犬との出会い
- ・訓練中の変なことやコミュニケーションを取ることの難しさ
- ・盲導犬としての役割を終え、引退した盲導犬の生き方

【感想】

- ・盲導犬(ピーちゃん)がとても可愛く、ユーザーさんとの絆を強く感じられました。
- ・福井さんがとても明るくて、全盲ときいてびっくりしました。
- ・今回のお話で盲導犬への考えやあり方が良く分かりました。
- ・視覚障害による困難性及び盲導犬と一緒に生きること、盲導犬としての役割を果たす
意味を理解することができました。
- ・子育てや人と関わる上でも大切なことを学びました。もう少し参加者がいれば良いの
にと思いました。
- ・普段から盲導犬を連れた福井さんを見かけていました。同じ校区で、本日はお会
いできて嬉しく思いました。

【学んだこと】

- ・視覚障がい者とのコミュニケーションは、音で伝えることが大切ということを知り、
色々なコミュニケーションの取り方について考えるきっかけとなったこと。
- ・盲導犬になれるのは全体の3～4割で、ユーザーに対して盲導犬が足りないこと
- ・盲導犬を見かけたら盲導犬の集中力を欠くことのないようそっと見守り、状況に
応じてユーザーに声を掛けることが大切であること。



第3回講座 12月8日(金)

参加者：2名

演題 「同和問題の解決を目指して」

講師 埼玉県県民生活部 人権・男女共同参画課
人権・同和問題啓発講師 吉岡 秀樹 氏

【目的】

- ・ 人権の基本を学び、今もまだ残る同和問題の解決を目指す。
- ・ お互いの人権を尊重し、共に生きる社会を実現する。

【主な学習内容】

- ・ 人権とはなにか、人権課題にはどんなものがあるか。
- ・ 身近な同和問題についての実例、認知度、歴史的背景
- ・ 同和問題の解決に向けた取り組み

【感想】

- ・ 人権と同和問題、どちらも他人事ではなく一人一人が自分の問題として受けとめ自分に置き換えて考えることが大事だと思いました。
- ・ 知らず知らずのうちに人権や差別につながる発言や行動をしていないか、改めて考え直せる良い機会になりました。
- ・ 命の尊さについて考えることは人権を大切にする一歩になる、相手の立場に立って考えてみる、なかなか考えさせられる講話でした。
- ・ 今でもなお、社会的に差別があるのはとても悲しいことだと思いました。
- ・ インターネットやSNSなどの普及により、誹謗中傷や名誉棄損などの書込みが増え、誤った情報が瞬時に不特定多数の人に広まってしまうことに改めて恐怖を感じました。

【学んだこと】

- ・ 人権の基本は「命」であり、「命の問題」として向き合うことが必要であること。
- ・ 誤った知識や思い込みは偏見を生んでしまうので、正しい知識を身につけること。
- ・ 自分にも関わりのある問題として考えること。
- ・ 予断や偏見を持たずに人と接すること。

